

## 令和元年度第2回現場見学会（CPDS 5ユニット認定講座）を開催しました。

愛知県土木施工管理技士会事業委員会の企画で現場見学会を開催しました。

1 開催日 令和元年10月8日（火）

2 参加者 43名

主催者 沼野会長、山田(正) 副委員長、山田(和) 副委員長、担当副会長、事業委員

参加会員 33名

3 協力 名古屋高速道路公社整備部  
中日本高速株式会社名古屋工事事務所  
名古屋市上下水道局技術本部建設部

4 協力 近畿日本ツーリスト

5 行程

名古屋高速道路公社大規模修繕工事現場➡中日本高速(株)名二環・名四西 IC（仮称）建設工事現場➡名古屋市上下水道局中央雨水調整池建設工事現場

6 概要

\*名古屋高速道路公社大規模修繕工事現場では、整備部の中山裕昭工事課長から「名古屋の都心部を中心に、総延長 81.2K、年間利用台数 34 万 1 千台を超える」などの名古屋高速道路の概要説明があり、続けて「名古屋高速道路の大規模修繕工事は、平成 27 年度に事業化され 15 年間、事業費 1250 億円の計画で進めており、大規模な施設の更新を回避するため、補強、補修で長寿命化を図っていく」などの事業概要の説明がありました。続いて工事課の田村啓介主査から「高機能防水層の設置、PC 床版下面シート補強工等の上部工。伸縮装置からの漏水対応の止水構造の改良塗装の増塗、表面保護工等の下部工工事」などの具体的な工事説明がありました。工事施行者の徳倉建設(株)佐合敏秀監理技術者からは、「工事延長 590m、14 径間 13 橋脚の工事で、一括吊り上げによる床版吊り足場工、床版補強工、伸縮装置補修工」などの工事概要の説明がありました。床版吊り上げ工の**一括吊り上げ**の作業状況については、動画による説明がありました。

現場へは、一度に多数での見学ができないため、4 班に分かれて床版吊り足場内での修繕工事現場を見学しました。



(床版吊り下げ足場内にて)



(現場にて)

\*中日本高速(株)名二環・名四西 IC（仮称）工事現場では、中日本高速(株)名古屋工事事務所小川芳樹工務課長から、「現在国土交通省と中日本高速(株)が有料道路拡大にて共同で工事を実施している名古屋西 JC から飛島 JC 間 12.2K が完成して伊勢湾岸自動車道と連結すれば、環状自動車道路として機能することとなる。工事区間には、今回見学の名四西 IC を含む 3 か所

の IC が設置される。」などの名古屋環状自動車道の概要説明がありました。続いて宮部光貴名古屋工事長から「この区間で橋脚工事は国交省、桁架設、床版工事は中日本高速㈱が施工という合併施行をしている。見学現場の名四 IC (仮称) は、ダイヤモンド方式の IC となり構造は PC 床版を採用して工期短縮も図っている」などの工事概要の説明がありました



(IC オンランプ上にて)



(現場にて)

\*最後の名古屋中央雨水調整池建設工事現場では、河合克敏名古屋市上下水道局建設部主幹からは「緊急雨水整備事業は、東海豪雨ならびに 20 年 8 月豪雨を受けての対策として整備を進めており、時間雨量 97mm の降雨に対して床上浸水の概ね解消を目指している。工事としては、ポンプ増強、雨水貯留施設、管きょ増強などを実施している。雨水貯留施設の名古屋中央貯水池は、貯留量 10 万 4000 m<sup>3</sup>」など名古屋市の浸水対策である緊急雨水整備事業の説明がありました。佐野勝美中央貯水池建設工事事務所長からは「発進立坑を平成 27 年から平成 29 年で深さ 57.4m をニューマチックケーソン工法で整備。貯留管の建設は、泥土圧式シールド工法、2 次覆工一体型シールドで、内径 5.75m、延長 5 km、深さ約 45~50m。始点は押切公園で終点は中川区の山王交差点。1500m 掘進地点で第 1 回のピット交換をし、現在 1530m 地点まで掘進している。管渠の断面は幅 1.4m 重さ 3.6 t の合成セグメントを使用。」などの工事概要の説明がありました。

現場の見学は、6 人で工事用エレベーターで地下 50m に降下し、トンネル内を徒歩にて見学しました。



(トンネル内の見学)



(現場にて)

**愛知県土木施工管理技士会では、来年度も春・秋季に2回現場見学会を開催する予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしています。最後に今回の現場視察にご協力いただきました各位には厚く御礼申し上げます。**